

○事業所名	千葉市大宮学園児童発達支援センター（ひまわりルーム 知的障害児クラス）		
○保護者評価実施期間	2025年12月22日		～ 2026年1月23日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	38	(回答者数) 30
○従業者評価実施期間	2025年12月22日		～ 2026年1月23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	20人	(回答者数) 20人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月27日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	週5日毎日通園することができることで身辺面への取り組みや様々な活動経験をし、行事等でその成果を保護者に向けて発表することができる。 集団活動の場面で、友だちと意識したり、関係を深めていくことができる。	繰り返しの支援の中で、利用児の取り組みやすい方法を考え、視覚支援等を使用し、わかりやすい方法で関わりをしている。 日々の生活の中で友だちと関わる機会をつくり、職員がそばで声かけや手本を示しながら、良い関わり方が身につくよう支援している。	研修等を通して職員のスキル向上を図り、特性に応じた関わり方がより適切にできるよう取り組んでいる。 また、さまざまな支援方法を学び、実践に生かす工夫を進めていく。
2	園庭が広く、活発に遊ぶことができる。また、雨天時でも室内の吊り下げ式の揺れ遊具で遊ぶことができる。 親子通園があり、職員と保護者とのつながりを深めることができる。	身体を使っでの活動が好きな利用児が多いため、身体をたくさん動かすことのできる活動を1日1回は取り入れている。 職員より保護者の方に話しかけるようにし、何事にも寄り添う姿勢を大切にしている。	利用児の気持ちに寄り添い、様々な遊具で色々な身体機能を使っでの活動ができるように支援していく。 様々な相談に対応できるよう、支援方法や制度等の情報を得ていく。
3	親子通園の機会を設けており、保護者の方との関係性を深められる。 行事等があり、様々な経験をすることができる。	保護者の方の負担にならないような日程で親子通園日を決めている。 季節行事や外出行事等を計画し、家庭では経験できない内容で行っている。	保護者の要望を丁寧に聞き取り、気持ちに寄り添った支援ができるよう努めている。 現在の取り組みを継続しつつ、支援内容については都度見直しを行い、より良い支援につなげている。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	通園バスを運行しているが利用児の自宅近くに乗降場所を設けることができず、乗車時間も長い。 保護者同士のつながりが以前より希薄になっており、交流が生まれにくい状況が課題となっている。	新入園児の親子通園期間や定期的実施している親子通園週間では、保護者が子どもと一緒に活動へ参加する時間が中心となっている。 そのため、保護者同士が自由に話したり情報交換を行う「交流の時間」が確保しづらく、結果として保護者同士のつながりやコミュニティ形成が進みにくい状況が生じている。	お子さんとの分離場面を設定し、保護者の方が交流できる場面を作っていく。 活動の一部を「子どもは職員と過ごし、保護者は交流できる時間」として設定する。 外遊びや室内活動の一部を分離時間として活用し、保護者同士が話しやすい環境をつくる。 座談会や情報交換タイムなど、保護者同士の交流を促すミニ企画を取り入れる。 年間計画の中に「交流を目的とした時間」を明確に位置づけ、継続的に交流機会を確保する。
2	他事業所を利用している利用児がいるがその事業所との連携が十分にとれていない。 クールダウンできる部屋が十分に確保できておらず、必要な場面で対応スペースが不足する状況がある。	療育中使用している部屋が日常的に活動室として使用されており、個別対応や環境調整が必要な子どものための別室を確保することが難しい日が多い。そのため、子どもの状態に応じて静かな環境へ移動したり、個別の関わりを行ったりするためのスペースが十分に確保できず、きめ細かな配慮が行いにくい状況が生じている。	1つの部屋をついたて等で区切り、簡易的に空間を分割することで、個別対応が可能なスペースを確保できるよう環境整備を進めていく。
3	地域に開かれていない。	近隣の方へは行事の挨拶や招待を行っているものの、学生ボランティアやOBボランティア以外の受け入れが進んでいない。実習経験者やOBの保護者は継続的に協力してくれている一方で、それ以外の地域住民に向けて紙面等で募集を行っても、立地条件の影響もあり問い合わせがほとんどない状況が続いている。	ボランティア募集の案内を積極的に行い、療育の様子に実際に入ってもらえることで、ひまわりルームの取り組みをより多くの方に知ってもらえるようにしていく。また、現在活用している媒体以外にも募集情報を掲載し、地域に向けた発信を強化していく。